

タイトル	2008年1月4日(金)のトリフ°記事全文		
掲載年月日	2008.1月4日	掲載物	じやかるに新聞
発表の場所	インタビュー・講演会・セミナー・パネルディスカッション・その他		
参考資料	和平プロセスが順調に進展		

日本の外務省は十二月、武力闘争を展開していた自由アチェ運動 (GAM) とインドネシア政府が二〇〇五年八月にフィンランドでアチェ和平合意に締結してから二年が経過して和平プロセスが比較的順調に進展しているとし、アチェ州の危険情報 (四段階) を「渡航の延期勧告」 (レベル3) から「渡航の是非検討」 (レベル2) に一段階引き下げた。この結果、これまで他国に比べ、数少なかつた日本人の援助関係者、観光客、ビジネスマンのアチェ訪問が増えると思われる。

在ジャカルタ日本大使館などによると、危険情報は定期的にインドネシアの治安当局の情報・統計などをもとに総合的に判断して更新。アチェ州では和平合意後の武装解除で銃器の引き渡しを実施したが、依然、多数の銃器が出回り、散発的に強奪、発砲、手りゅう弾を使用した事件が発生しており、外務省は渡航する際は、最新情報の入手と十分な安全対策を呼び掛けている。

アチェ・ニアス復興再建庁 (BRR) が二〇〇九年四月に任期を終えて解散するのを前に、アチェでは復興援助を支援するインドネシア人職員や外国人が減っているが、エアアジア航空が同州州都バンドアチェとマレーシア間に十一月、初の国際定期便を就航するなど、アチェへの外国人のビジネスマンや観光客の渡航増加が予想される。

アチェ州には日本人は国際機関やNGO関係者を中心とした援助関係者が数十人在住、日本人留学生も数人滞在している。

日本のNGO、アジア医師連絡協議会 (AMDA) の中嶋秀昭さんは「夜外出することもあるが、日常生活で危険を感じることはない。外国人が危険にさらされているという話はほかでも聞いていない」と語る。

インドネシアでは一月三日現在、中部スラウェシ州ポソ県とパル市に「渡航の延期勧告」、アチェ州のほか、マルク州、北マルク